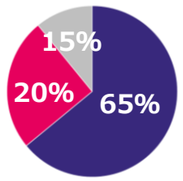
広報クリニック
<レイアウト編>

“数字は大きく、単位は小さく”

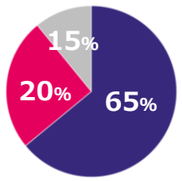
✕ 数字と単位が同じ

3時間　5％



◎ 単位が小さい

3 時間　5％



スライドやポスターでは、数字を強調したい場合がよくあります。数字と単位の文字の大きさが同じでは、インパクトに欠けてしまいます。

また、単位が大きすぎても数字のインパクトがなくなってしまい、認識・記憶しにくくなるといわれています。左の例をご覧いただいてわかるように、数字に対して単位をひと回り小さくすることで、認識のしやすさが向上し数字が強調されたことがよくわかると思います。特に表やグラフでは、単位を小さくすることはかなり効果的です。

(参考サイト：伝わるデザイン)

シメのヒトコト
まちづくりの「便利な言葉」に気をつける

まちづくりでよく使われる言葉、例えば地域活性化、ネットワーク、連携、協働、ボランティア、コミュニティなど、これらの言葉は使い勝手が良く、とても便利な言葉ですが、一方で曖昧な部分があったり、複数の意味があったりする場合があります。

また個人の解釈次第で、どのようにでも捉えることができる言葉でもあります。実際のまちづくりの現場では、捉え方の違いがトラブルに発展するケースが散見されます。

そもそも、「まちづくり」という言葉自体が曖昧ですよね。曖昧な言葉はできるだけ使わない方が良いですが、使わざるを得ないこともあります。使うときには、その言葉を使っている背景や意図、ねらいや意味合いが伝わるように説明をする必要があります。

自分がその言葉を聞くときには、相手の背景や意図などが理解できるように、根気強く尋ねることで理解が深まります。「便利な言葉」は使うときも聞くときも、注意が必要ですね。

▼支援室より

2014 年度から 2 期 6 年間に渡り、まちづくり支援室を NPO 法人ミディエイドが受託・運営してきました。情報誌の取材を通じて、多くの NPO・ボランティア団体の皆様と知り合うことで、紙面の充実につなげることができました。
読者の皆様、今までご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

- **発行**　志免町まちづくり支援室
- **発行日**　令和 2 年（2020 年）3 月 31 日
- **編集**　NPO 法人ミディエイド
- **住所**　〒811-2244

福岡県糟屋郡志免町志免中央 1 - 3 - 2（生涯学習 1 号館内）

TEL　092-936-8626

FAX　092-936-8626

E-mail　collabo@town.shime.fukuoka.jp

- **開室時間**　9：00～17：00

※ 4 月 1 日(水)より時間変更

▲公式ホームページ

■ご案内

開室時間が変更となります。

4 月 1 日(水)より
火曜日～土曜日
9:00～17:00

3 月 31 日(火)まで
▼火曜・木曜・土曜
9：00～17：00
▼水曜・金曜
9：00～21：00

The 志免町 まちづくり 支援室

2020.3.31

Vol.25

<本号の内容>

1ページ【支援室レポート】ボランティア活動の環境を整える
2ページ【取り組み紹介】　ネットワークづくり
3ページ【団体活動情報】　公園活用プロジェクトＸ
　　志免町まちづくり住民協議会
4ページ【広報クリニック】レイアウト編

【支援室レポート】ボランティア活動の環境を整える
～ボランティア受け入れ体制整備への取り組み～

まちづくり支援室では、ボランティア活動の機会充実と受け入れ体制の整備を目的に、団体の課題の整理や仕組みづくりに取り組んでいます。今回、志免町ボランティア連絡協議会（以下、ボラ連）と、事務局を担う志免町社会福祉協議会（以下、社協）と共に、活動の見直しを行いました。

▼ボラ連の取り組み

ボラ連は、町内でボランティア活動を展開する団体が協議会を結成したもので、社協への事業協力や福祉全般の増進に取り組んでいます。活動の一環として、近隣福祉施設の授産品を販売する「ハートフルコーナーinしめ」を運営し、ボランティアを募集しています。

▼活動の受け入れ環境を整える

今回は、ボランティア募集を見直す前に、受け入れの場であるハートフルコーナーの充実を図ることになりました。コーナーの運営開始から4年が過ぎ、目的や意義が薄れているという声があったからです。そこで、3回の会議を通して以下のことに取り組みました。

①目的	活動の振り返りと目的の再確認
②意義	各施設の見学と情報交換
③充実	施設や製品の情報を団体内で共有し誰でも紹介できる仕組みづくり

▼活動しやすい仕組みをつくる

販売品を生産する福祉施設の見学では、施設の特徴や作業する利用者の様子、製品に込められた想いを知ることができました。今後は、情報を集約したファイルを作り、コーナーに交代で立つ団体のメンバーや当日参加のボランティアに共有することで、誰でも説明できる仕組みにする予定です。

今回のボラ連の取り組みは、自分たちが意義をしっかり意識しながら活動できる環境を整え、ボランティアを受け入れる準備をすることでした。ボランティア活動で最も大切なことは「自発性」です。ボランティアを受け入れる側は、ボランティアがやりがいを感じながら積極的に活動できるよう、環境を整えることが重要です。

▲ 町内の就労継続支援 B 型施設を見学する様子